

巻 頭 言



千葉市長 神谷 俊一

多文化共生社会の実現を目指して ～「千葉市多文化共生推進アクションプラン」の策定～

本市における在住外国人は3万人を超え、総人口の約3%となっており、5年前の1.25倍に急増しています。外国人数の増加とともに在留期間も中長期化しており、外国人市民が安全・安心に暮らしていくためには、医療・福祉、保育、学校教育、就学・就労などあらゆるライフステージにおける支援が必要とされています。

また、多様化したニーズにきめ細かく対応するには、地域の様々な活動主体と有機的に連携し協働する基盤が必要であり、それらを構築するためには、主体的に行動し持続可能な仕組みとできる専門人材の育成・定着が求められます。

本市では、外国人総合相談窓口でのきめ細やかな相談対応や多言語での情報発信、地域における日本語教育の推進、通訳ボランティアの育成と活動支援、異文化理解・相互理解の促進などを位置付けた「千葉市多文化共生のまちづくり推進指針」を平成29年に策定し、多文化共生社会の実現に向けた施策に取り組んでまいりました。本年4月に当指針を見直すとともに、今後3年間で取り組むべき施策をまとめた「千葉市多文化共生推進アクションプラン」を策定しました。

アクションプランでは、「ことば」や「くらし」、「災害時」など外国人市民の生活に係る支援のほか、外国人市民と日本人市民の交流を促進し、相互に理解を深めるため、新たに、AIチャットボットによる多言語・やさしい日本語による情報発信や、LINEを活用した外国人相談など、環境や仕組みづくりにおける施策を位置付け、外国人市民が地域社会の一員として活躍できる機会の創出に取り組んでまいります。

今後も指針の基本理念である「全ての市民が、安全・安心に暮らし、国籍や言語・文化などの違いを認め、互いに分かり合い、支え合い、多様性をまちの力にする多文化共生社会を実現する」ことで、国際都市としてのさらなる発展を目指してまいります。